

未来の新町橋通りへ！
「アイデアの種」発掘ワークショップ

徳島県 県土整備部 都市計画課



本日の行程

1	開会の挨拶	5 分
2	資料の説明	25分
3	グループワーク①	30分
4	グループワーク②	30分
5	各班の発表	25分（5班×5分）



ウォーカブルの取り組み

ウォーカブルとは

人口減少・少子高齢化の進行、商店街のシャッター街化などにより、地域の活力が低下

▼

都市の**魅力**を**向上**させ、**賑わい**を**創出**するため、**まちなか**を「車中心」から「**人中心**」の空間へ再構築

道路と沿道を一体的に使い、**人々が集い憩い多様な活動**を繰り広げられる「**ウォーカブルな空間**」に改変

Walkable **歩きたくなる** 居心地が良い、人中心の空間を創ると、まちに出かけたくなる、歩きたくなる。

Eye level **まちに開かれた１階** 歩行者目線の１階部分等に店舗やラボがあり、ガラス張りで中が見えると、人は歩いて楽しくなる。

Diversity **多様な人の多様な用途、使い方** 多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。

Open **開かれた空間が心地良い** 歩道や公園に、芝生やカフェ、椅子があると、そこに居たくなる、留まりたくなる。



道路を占用した夜間オープンカフェ（福岡県北九州市）

1階をガラス張りの店舗にリノベーションし、アクティビティを可視化
民間敷地の一部を広場化（宮崎県日南市）





駅前のトランジットモール化と広場創出（兵庫県姫路市）



２つの開発の調整により一体整備された神社と森（東京都中央区）





公園を芝生や民間カフェ設置で再生（東京都豊島区）

出典　国土交通省「居心地が良く歩きたくなるまちなかづくり」、p15、https://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/content/000155748.pdf

ウォーカブル事例

大手前通り｜兵庫県姫路市

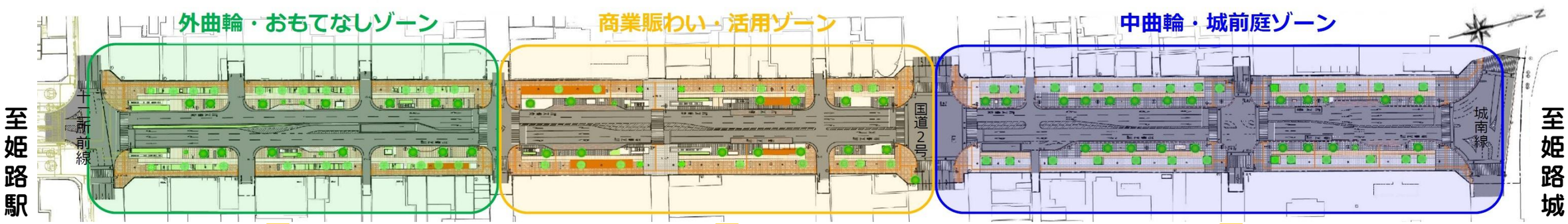
車道中心だった駅前をトランジットモール化するとともに、ゆとりある歩行者空間に再整備

姫路駅北駅前広場・整備前





出典　第2回 都市交通施策の再整理に関する検討会･参考資料2･P6（国土交通省都市局 街路交通施設課）



◆緑と花のおもてなし空間

緑地を多く確保し、**モニュメント**と**ベンチ**、花壇が一体となった休息空間を整備。花壇について、**アダプト制度**等を活用し、市民や企業が参加できるよう整備。

◆市民主体の活用による賑わい空間

市内産杉材を使用した「**ウッドデッキ**」など、利活用スペースを整備。**イベント**や**オープンカフェ**などができる、にぎわいの核となる空間とします。

◆姫路城を感じる静かな休息空間

現在の車道路肩部分を歩道に拡幅することで、**姫路城**を**眺め**ながら**散策**や**休憩**ができるようになります。姫路城との調和を意識した整備内容とし、重厚感のある色使いを基調としております。

出典　大手前通り再整備事業リーフレット（姫路市HP）の「ゾーニング図」を一部加工

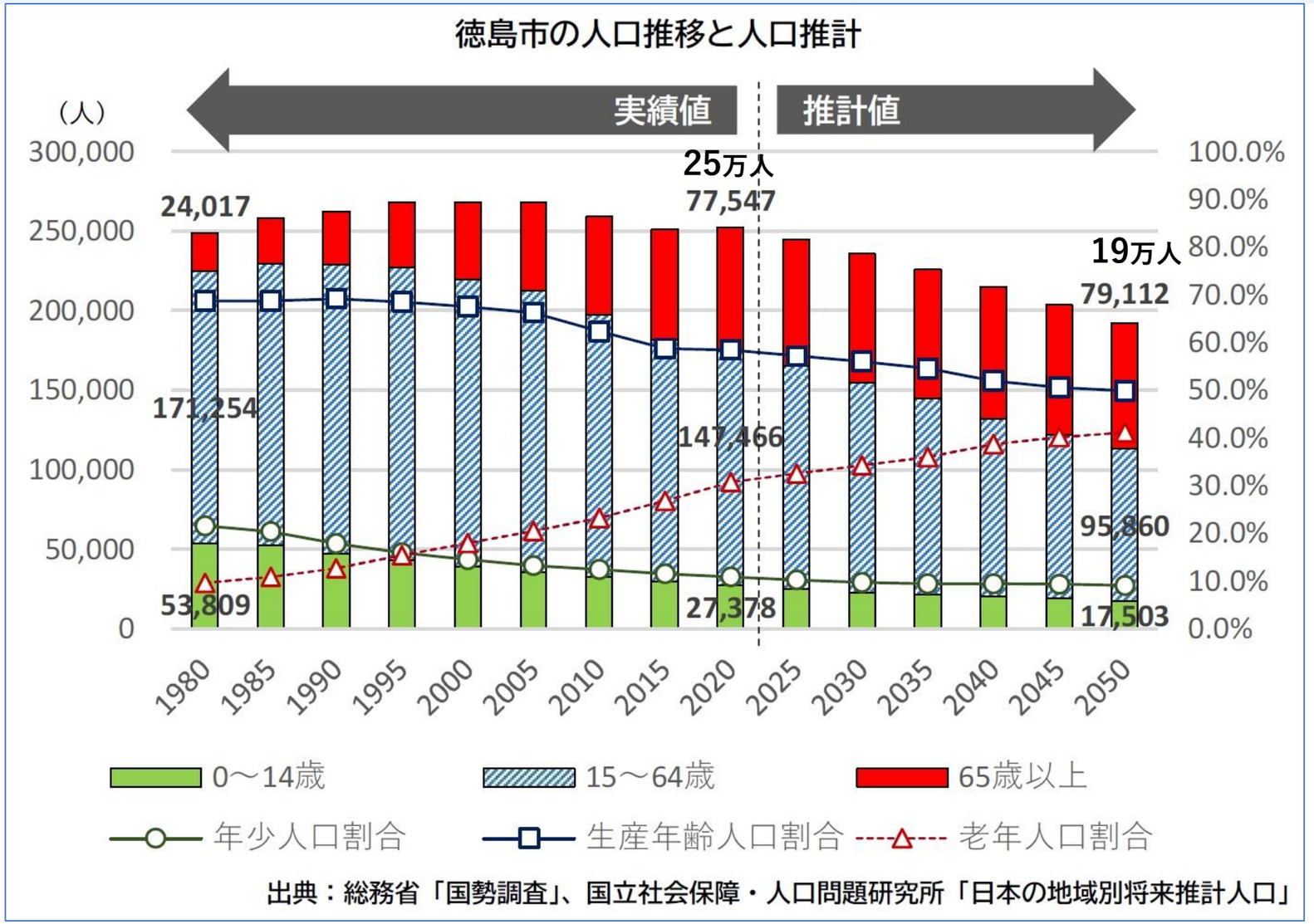
長期的視点｜将来の姿を見据える

ー 人口（徳島市）ー

将来予測

徳島市の人口は、**2050年**には**約19万人**と予測。

2020年の約25万人から**23.7%減少**。（2025年は24万人）

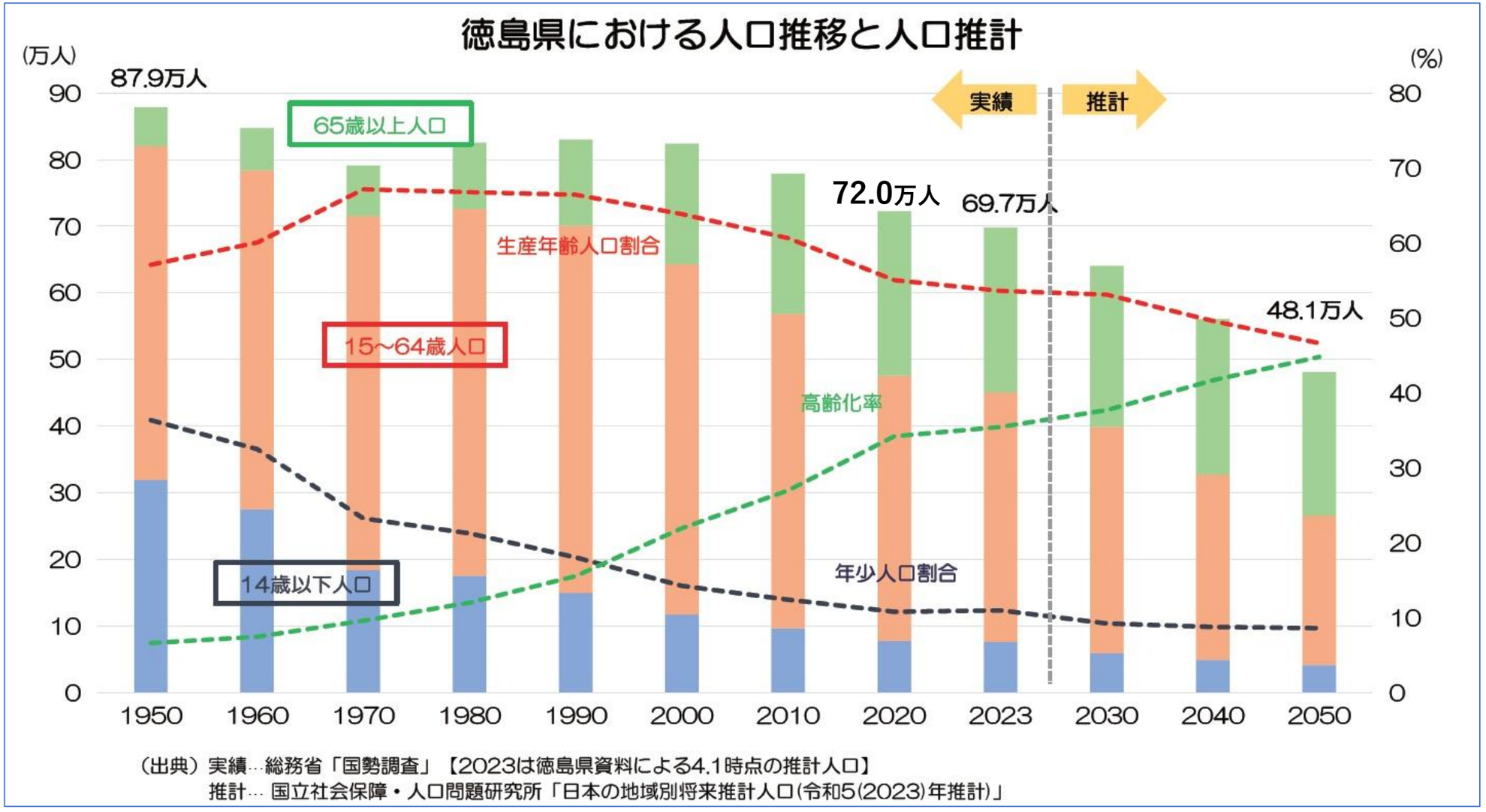


出典：徳島市（令和7年）、「徳島市総合計画2025」、p14

長期的視点｜将来の姿を見据える　－ 人口（徳島県）－

将来予測

徳島県の人口は1950年の約88万人がピーク。1999年以降は**一貫して減少**（2000年は約82万人）。
今後、**2050年**には**約48万人**（2020年比・**33.2%減**）にまで減少すると予測



（出典）実績…総務省「国勢調査」【2023は徳島県資料による4.1時点の推計人口】
推計… 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5(2023)年推計）」

出典：徳島県（令和8年）、「徳島新未来創生総合計画」、p4

長期的視点｜将来の姿を見据える　－ 気候 －

▮将来予測

気象庁によると、**年平均気温**は、21世紀末（2076～2095年）には、20世紀末より、
+1.4℃（パリ協定の2℃目標が達成された場合）～**+4.5℃**（追加的な緩和策を取らなかった場合）まで上昇



出典：文部科学省及び気象庁（令和7年）、「日本の気候変動2025」本編p14、概要版p25

長期的視点｜将来の姿を見据える　　ー 技術 ー

▮将来予測

現在、運転者を要しない「レベル4自動運転」のバス等が11箇所で実装

国産L2++車（ドライバー操作をほぼ必要としない高度な運転支援）が2027年度に市販化予定

2030年度には、全国で自動運転サービス車両が1万台。将来的には、自動運転社会の実現。

2026年度
- 自動運転社会の早期実現に向けた当面の方策を実施

2027年度
- 「AIベース」の自動運転車が販売予定
- 自動運転タクシーや自動運転トラックなどの社会実装

日産　L2++自家用車



いすゞ無人トラック



日産　無人タクシー



2030年度

第３次交通政策基本計画　自動運転KPI

2030年度における自動運転サービス車両数（※）	10,000 台

※全国のバス及びタクシー等の公共交通、幹線輸送トラック車両

自動運転社会の実現（自動運転バス・タクシー・トラック、自動物流道路）

10

出典：国土交通省自動運転実現本部第3回参考資料「自動運転の普及に伴う社会変容への対応について」（2026年6月8日）、p10

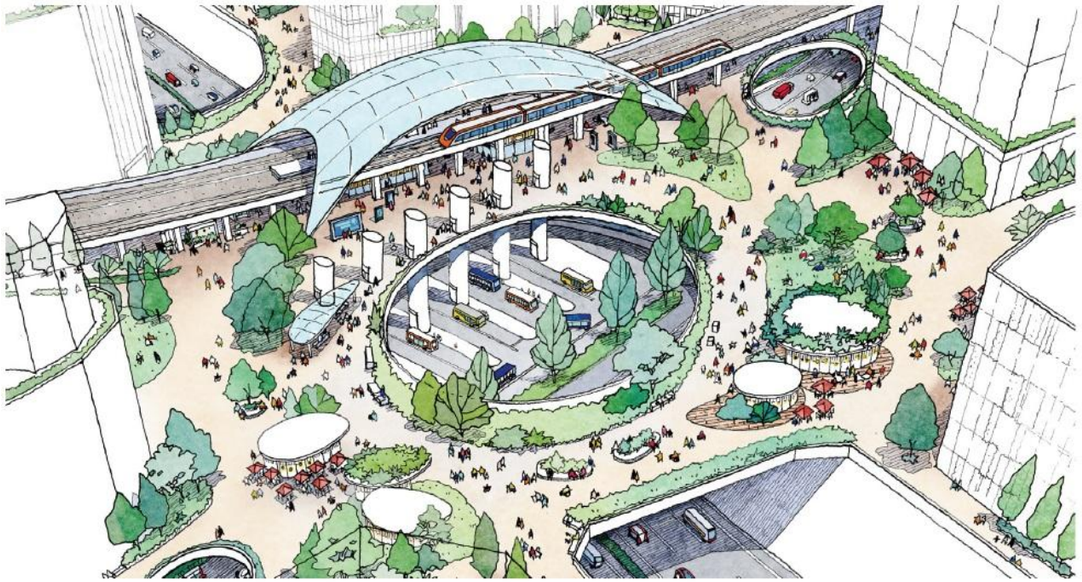
長期的視点｜将来の姿を見据える

― 暮らし･移動 ―

自動運転の普及により変化する都市･道路空間



マイカーを持たなくても便利に安心して移動できるモビリティサービス



MaaSや自動運転に対応した人が主役の都市交通ターミナル



人中心の空間として再生した、まちのメインストリート



曜日や時間帯に応じて道路空間の使い方が変わる路側マネジメント

多様なモビリティと人中心の空間を一体化し、移動･滞在･交流･社会参加を支える道路へ

出典：国土交通省、「2040年、道路の景色が変わる」、p15、19、23　https://www.mlit.go.jp/road/vision/pdf/01.pdf

長期的な課題に備えるウォーカブルな空間づくり



※ 国土交通省自動運転社会実現本部第2回資料1、「自動運転の普及に伴う社会変容について」(2026年4月10日)、p4

長期的な課題に備えるウォーカブルな空間づくり



※ 国土交通省自動運転社会実現本部第2回資料1、、「自動運転の普及に伴う社会変容について」（2026年4月10日）、p5

今年度のゴール

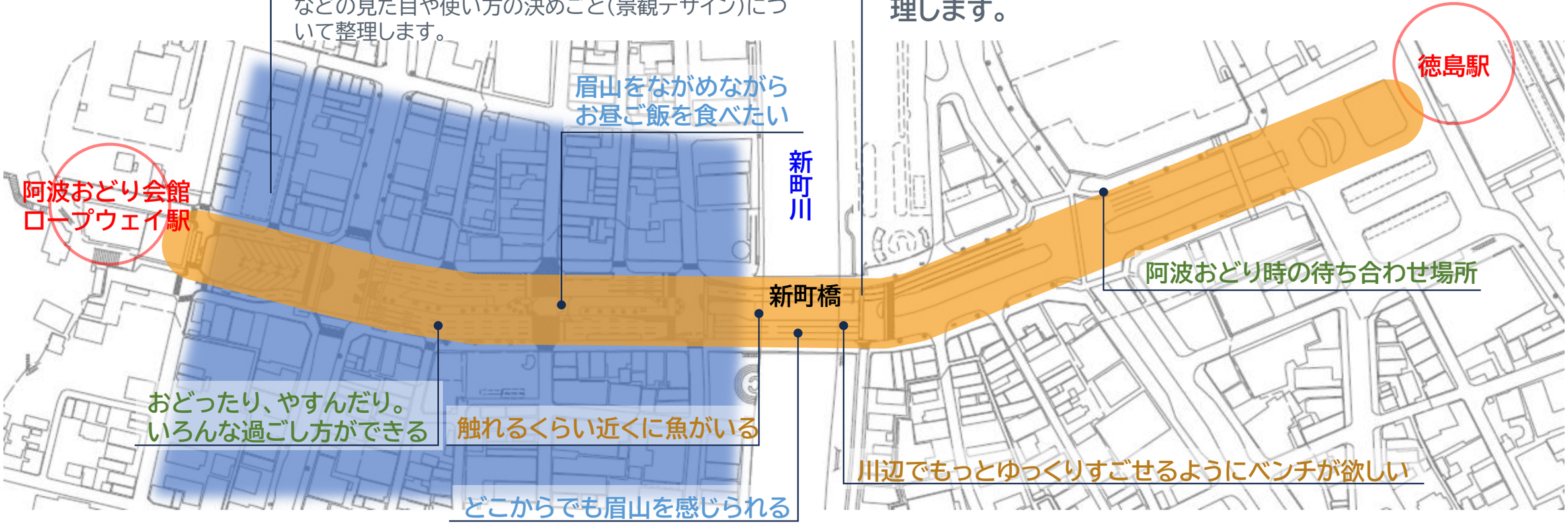
「新町橋通り全体のコンセプト」と「新町地区の景観デザイン」をとりまとめます

新町地区景観デザインWS｜新町地区

道路の滞在空間の具体的な配置や、ベンチ・植栽・照明などの見た目や使い方の決めごと（景観デザイン）について整理します。

コンセプトWS｜新町橋通り全体

長期的に通り全体で大切にしたいこと（全体コンセプト）と場所ごとの使い方や考え方（エリアコンセプト）の2つを整理します。



コンセプトWSで考えるもの（例）

旭川市（令和6年）、「買物公園エリア未来ビジョン」買物公園エリアプラットフォーム、p13



素敵な自分で　いられるエリア



行きたい・歩きたくなるエリア



やりたいが自由に実現できるエリア

道路再編空間の事例



四日市市（令和5年）、「ニワミチよっかいち」中央通り再編基本計画、p12-15

このワークショップは、新町橋通り全体のコンセプトを考えます

コンセプトWS　全2回

新町橋通り全体のコンセプトを考える

第1回 コンセプトWS　本日

実現したい風景・過ごし方の意見を広げ、アイデアの種を育みます。

WEBアンケート※

今後の全体コンセプトやエリアコンセプトの検討のため、「新町橋通りの風景」を切り口に県民・市民の方々から様々な意見を募集します。

第2回 コンセプトWS

12月or1月予定

これまでのWSやWEBアンケートの結果を参考に、全体コンセプト、エリアコンセプトを考えます。

県都とくしまウォーカブル推進会議

有識者等で構成する会議。新町橋通りの全体コンセプトの方向性について議論を予定

また、**全体コンセプトとは別に**

新町地区景観デザインWS　全3回

新町地区の道路空間と景観デザインを考える

本日のポイント

出発点をそろえる

これまでの取組や意見を
共有し、議論の出発点をそろえます。

意見を広げる

新町橋通りで実現したい
風景や過ごし方の意見を
広げます。

アイデアの種をつくる

たくさんの付箋の中から
似た意見や個性的な意見を
見つけアイデアの種としてまとめます。

今回のグループワークで考えてもらいたいこと

① これからの新町橋通りで見たい風景・過ごし方（グループワーク1）
② アイデアに共通する価値を表すアイデアの種（グループワーク2）

これまで積み重ねてきた議論を土台に、
新町橋通りの将来像を具体的な風景や過ごし方として描き、
次回のコンセプトづくりへつなげます。

本日の進め方

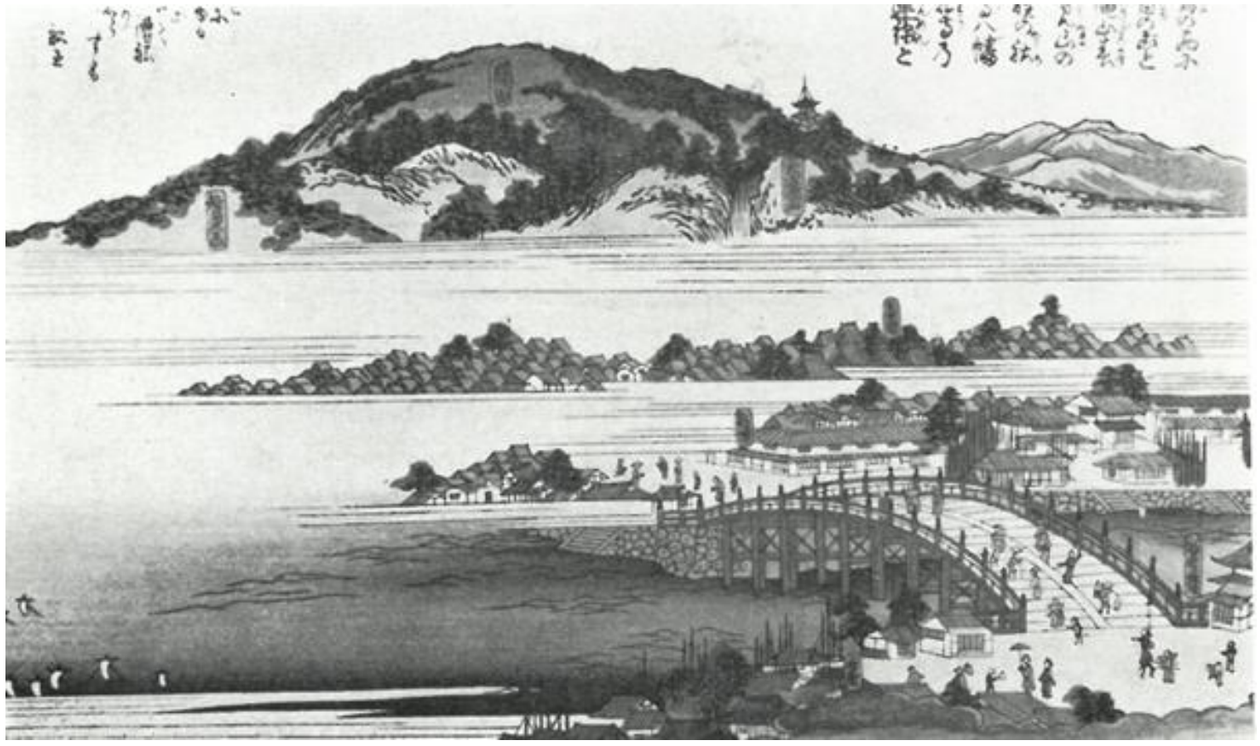
1	これまでの議論等の共有	新町橋通りの歴史や現在の使われ方、これまでの取組を資料で確認します。
2	過去の意見と確認できたこと	これまでに出た意見を確認し、今回さらに話し合いたいことを考えます。
3	グループワーク1	「どこで、どんなことをして過ごしたいか」を付箋に書き、地図に貼ります。
4	グループワーク2	意見をまとめ、「こんな通りにしたい」という思いを短い言葉と説明文にします。
5	各班発表と全体共有	班でまとめた「こんな通りにしたい」という言葉と、具体的な過ごし方を発表します。

新町橋通りを知る

水運のまち、商店街、阿波おどり、そしてヤシ並木

新町橋と新町川

新町橋は、藩政時代、城下の武家屋敷（寺島）と下町（新町かいわい）を結ぶ重要な関門でした。
明治13年に架け替えられた新町橋は、徳島県初の鉄橋でしたが、第二次世界大戦中の空襲で焼け落ち、その後、昭和27年から二重橋となりました。



阿波名所図絵　文化8年（1811）所蔵の新町橋※



二重橋となり多くの観光バスが行き交う（昭和32年（1957））※



藍蔵と帆かけ船（昭和初期）※

※　徳島市（昭和44年）、『写真でみる徳島市百年』「新町川」、pp60-63

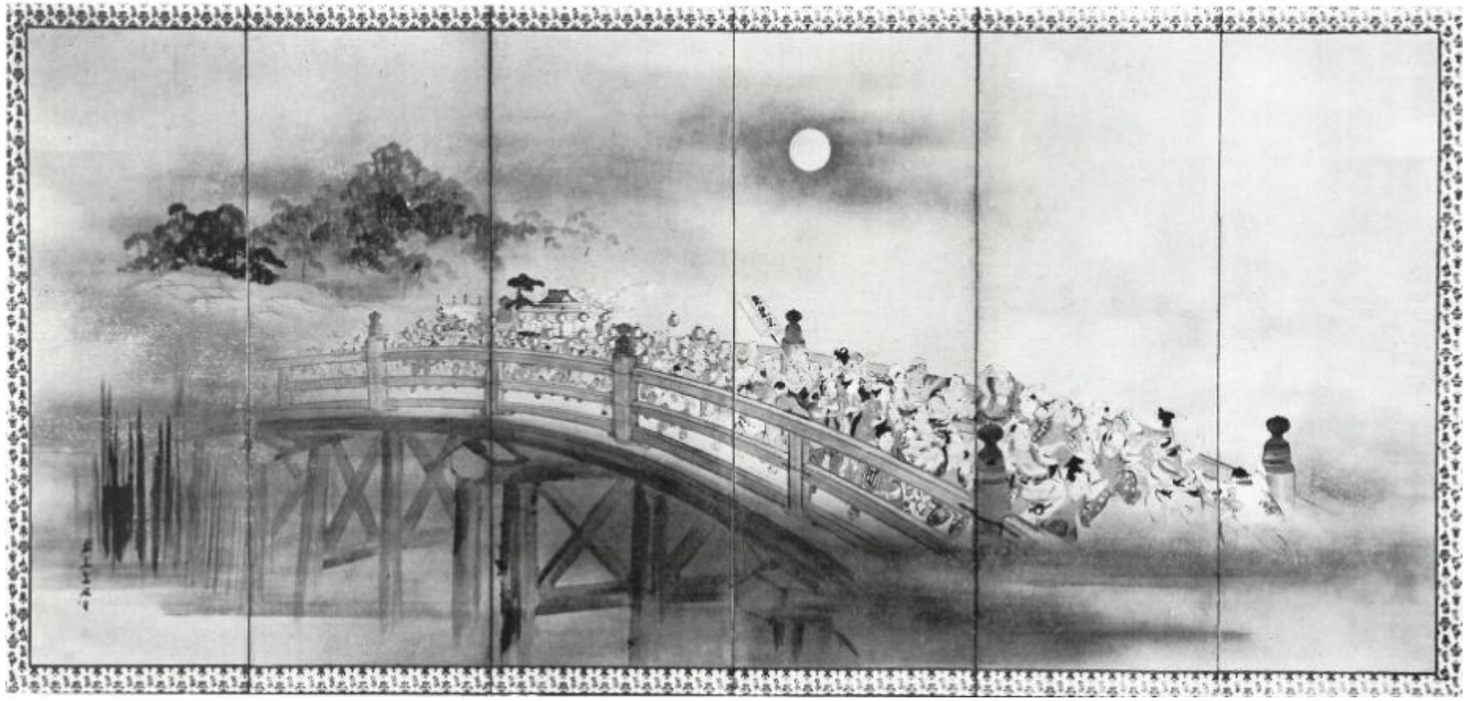
商店街と阿波おどり

新町橋周辺は、藩政時代、藍取引等の水運や伊予街道等の各種街道が交差する交通の結節点として発展し、各商店街や問屋街が形成されていきました。また、「阿波盆踊図屏風」から確認できるように、昔から新町橋通りでは阿波おどりが行われていました。



東新町1丁目から2丁目をのぞむ（昭和10年頃）

出典：徳島市（昭和44年）、『写真でみる徳島市百年』、p.82



吉成葭亭「阿波盆踊図屏風」六曲一双の一部

出典：徳島市（昭和44年）、『写真でみる徳島市百年』、p200



新町橋南側から新町橋2丁目をのぞむ（2026年）

戦災復興から受け継がれる景観特性

中央分離帯の緑の軸線が、通りやまちの骨格を形づくってきました。

▮新町川緑地に込められた計画理念

都市の観光及び美観上、中心部の新町川沿いに
大規模な緑地を設けることを重視



出典：三輪潤平・山口敬太・川崎雅史（2018）「戦災復興都市計画における河川沿い緑地計画に関する研究」、都市計画報告集17巻2号、P277-282

▮戦災復興期の中央分離帯にみる空間特性



戦災復興当初車道は2車線程度の幅員｜新町橋より（昭和25年）※



中央分離帯と車道の高低差が少ない（昭和35年）※

※ 出典：新町川文化ギャラリー、「徳島大空襲デジタルアーカイブ」https://www.shinmachigawa.com/pg106.html

現在の新町橋通り

新町橋通りは幅員50mの広い通りで、幅9～10mの中央分離帯と、その両側の車道・歩道で構成されています。

幅員	50 m
歩道部	6.5～9 m(両側)
車道部	32～37 m(3～4車線／両側)
中央分離帯	9～10 m
延長	徳島駅前から阿波おどり会館前まで約630 m



ワシントンヤシについて

戦災復興の中、1953年の四国国体を契機にワシントンヤシが徳島駅周辺に植樹され、徳島の玄関口を印象づけるシンボルとして親しまれてきましたが、老木化が進んでいることから、道路の安全確保のため、近い将来、伐採する必要があります。

大正14(1925)年

米国ロサンゼルスで養鶏業を営んでいた
徳島市出身の方が帰国の際、種子を持ち帰り、
徳島で育成。

昭和5(1930)年4月

県庁舎の整備にあたり庁舎の周囲へ移植。
当時の大きさは人の身長ぐらいであった。

昭和28(1953)年

県庁舎の再度の改築時、
駅前の中央分離帯や徳島市役所の前などへ分散移植。

※出典：阿波型農業物語、立石一著



徳島駅前のワシントンヤシ（昭和47年）※



徳島駅前のワシントンヤシ（令和8年）

※出典：徳島市立図書館／徳島市の昔の写真　https://adeac.jp/tokushima-lib/top/

景観・地域資源｜新町橋通りを特徴づける景観

眉山・新町川と歴史・文化がつくる徳島のシンボル景観

新町橋通りは、眉山への眺望や新町川、新町橋など、徳島を象徴する自然・歴史資源が集まる「徳島の顔」となる通りです。商業地のにぎわいと自然・歴史景観が調和した空間づくりが求められます。

▮周辺の地域資源


眉山※1


新町川・新町橋※1


JR徳島駅※1


徳島城跡※1


阿波おどり会館

▮景観の特徴

眺望｜新町橋から望む眉山



素材｜阿波青石





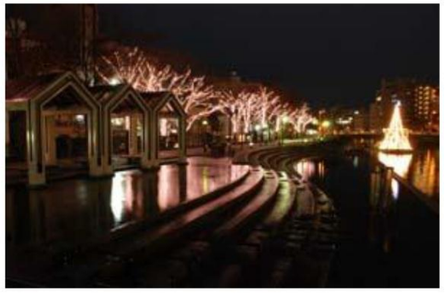
水辺｜人の活動が見える景観


川から街が見られる※2


街から川を見る※4

夜景｜LEDイルミネーション





出典
※1 徳島市(平成25年)、「徳島市景観計画」、pp4-42
※2 徳島県観光協会、「阿波なび」、https://www.awanavi.jp/archives/spot/2542
※3 徳島市、「阿波おどり会館・あわぎん眉山ロープウエイライトアップ」、https://www.city.tokushima.tokushima.jp/shisetsu/bunka_art/ledkeikan.html
※4 国土交通省「かわまちづくり」、https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/machizukuri/map/shikoku/uchimachi_shinmachi.html

新町橋通りを取り巻くまちの変化

新町橋通り周辺では、新町西地区の再開発や新町川の水辺活用など、新たな人の流れや滞在を生み出す取組が進んでいます。新町橋通りにおいても、こうした周辺の変化を生かしながら、さらなるにぎわいや滞在を創出することが期待されます。

▮新町西地区の再開発

住宅・ホテル・商業施設、「川の駅」や広場など新たな交流・滞在拠点の整備が進んでいます。



出典　徳島市「新町西地区第一種市街地再開発事業計画について」、p15



新町西地区の川の駅

▮新町川の水辺活用

新ホール整備をはじめ、水辺を歩く・過ごす・舟で巡る空間づくりに加え、水辺空間のさらなる利活用に向けて取り組みを進めています。



▮眉山未来プロジェクト

あわぎん眉山ロープウェイのゴンドラが25年ぶりに更新されました。ロープウェイの更新をはじめ、公園空間の利活用やイベント・管理運営など、眉山全体の魅力向上に向けた取組が進められています。



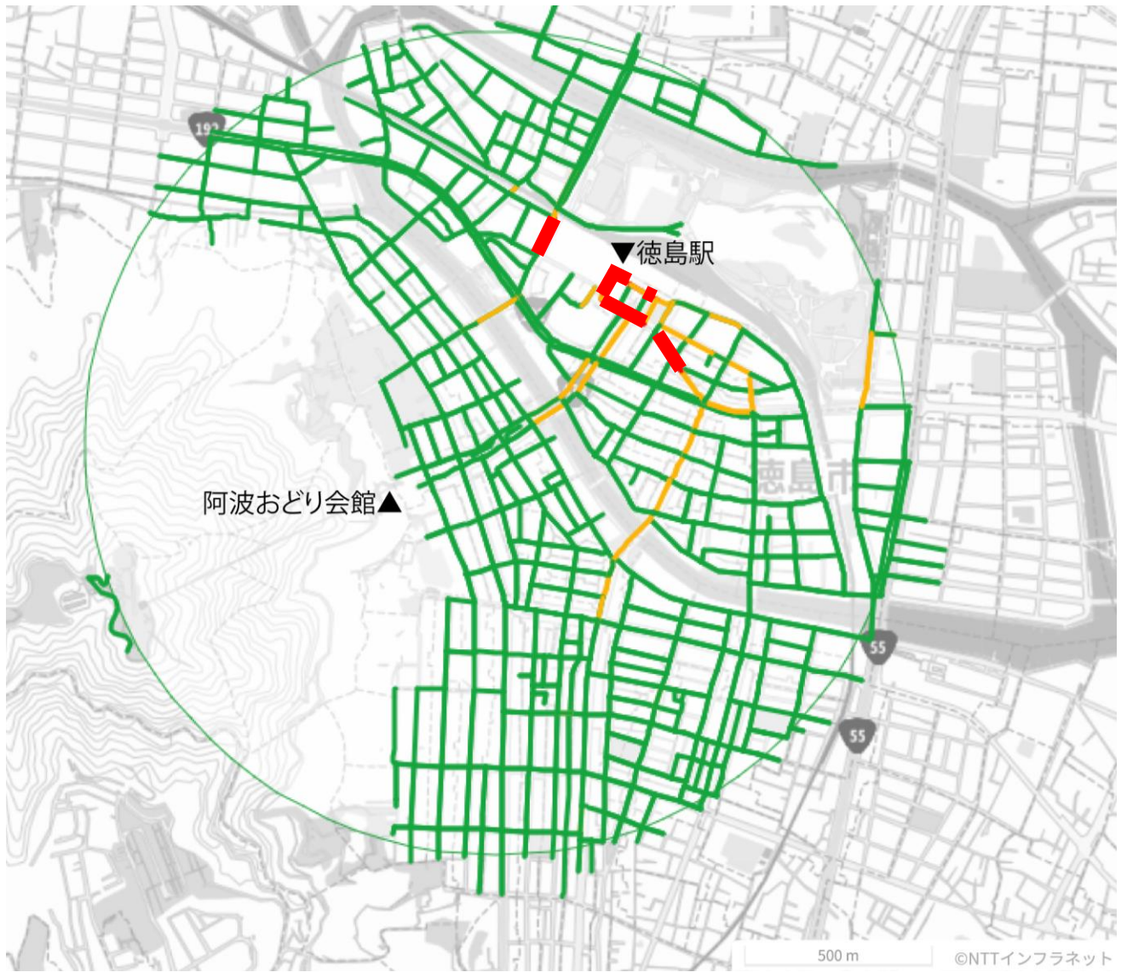


出典　毎日新聞「見晴らし良好　あわぎん眉山ロープウェイのゴンドラ25年ぶり新装」、
「https://www.asahi.com/articles/AST2X4PWQT2XPUTB001M.html?iref=pc photo gallery bottom」
眉山日和 BIZAN BIYORI VOL.02
「https://www.bizanbiyori.com/post/%E7%9C%89%E5%B1%B1%E6%97%A5%E5%92%8C-bizan-biyori-vol-02」

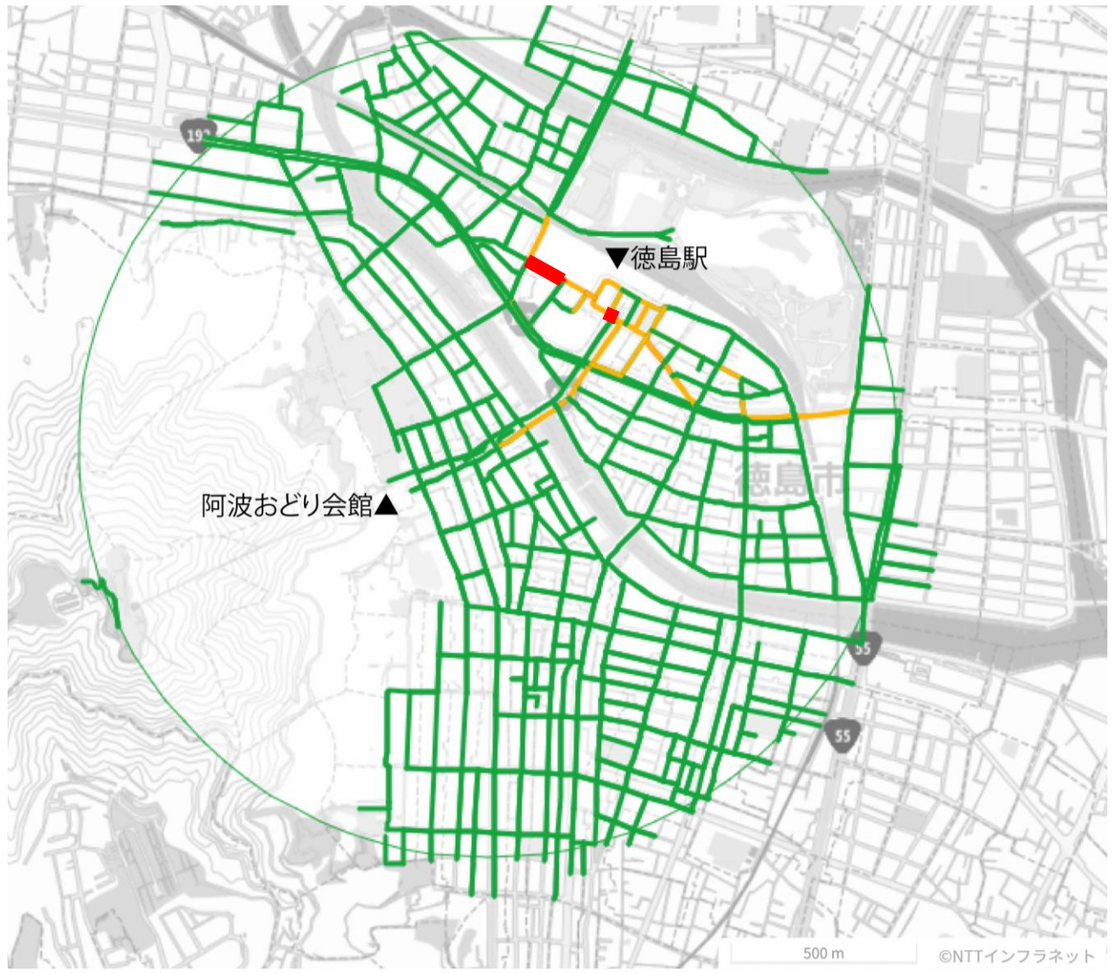
ビッグデータの分析からみた回遊性の現状

平日と休日の新町橋通り周辺の通行人口

通行人口　多い（2,000~）　普通（1,000~2,000）　少ない（0~1,000）



2025年**平日**（2025.9.16~9.18）



2025年**休日**（2025.9.13~9.15）

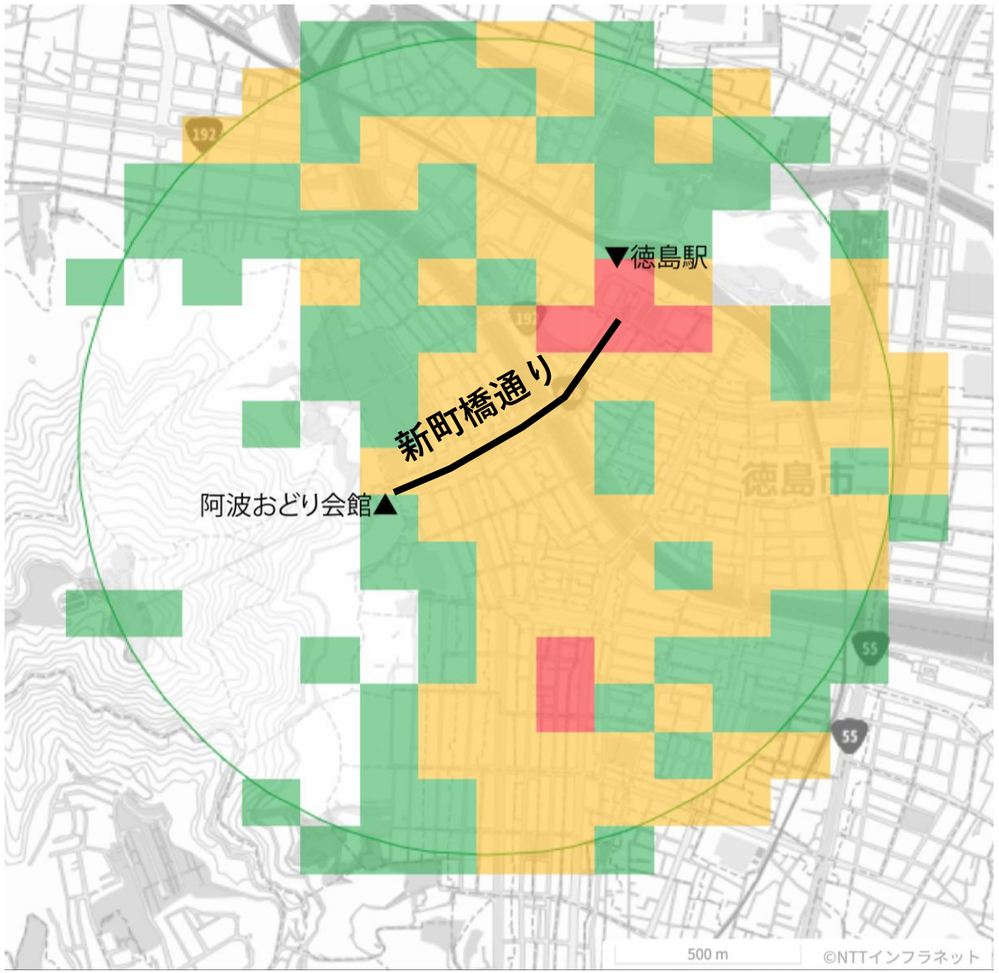
データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDILocation Analyzer」調査に用いたデータは au（KDDI）スマートフォンの位置情報ビッグデータ。（auスマートフォンユーザーからの同意に基づき取得し、個人が特定できない形式に加工した位置情報および属性（性別・年齢層）情報データ）・データには 20 歳未満, およびインバウンド観光利用者のデータは含まれません。・分析結果の数値は全人口推計値（サンプルを、国勢調査の市区町村別・性年代別人口に基づいて拡大した値）となります。
下図はNTTインフラネットを基に作図。

歩行者の回遊は、平日・休日ともに徳島駅周辺に多く集中している。
新町橋通り（徳島駅～新町橋付近）においては、一定の回遊行動が確認できる。

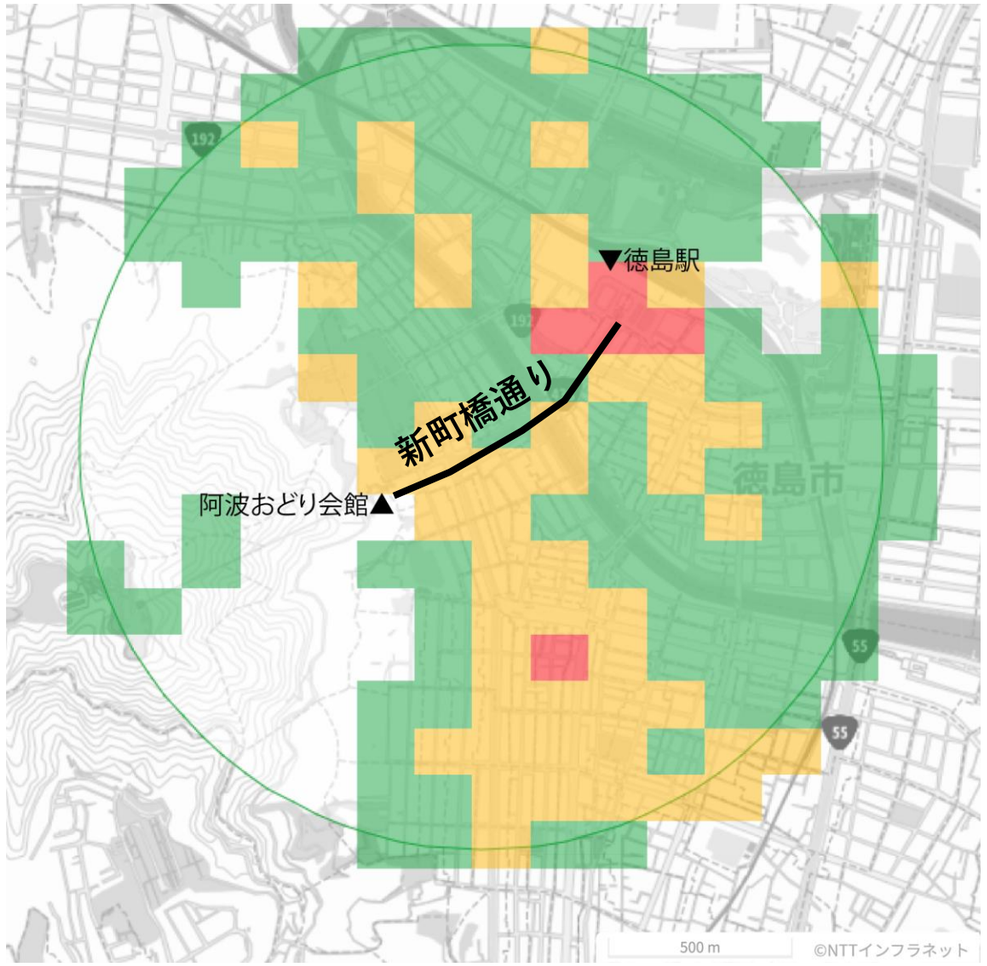
ビッグデータの分析からみた回遊性の現状

平日と休日の新町橋通り周辺の滞在人口（30分以上）

滞在人口　多い（5,000~）　普通（1,000~5,000）　少ない（0~1,000）



2025年**平日**（2025.9.16～9.18）



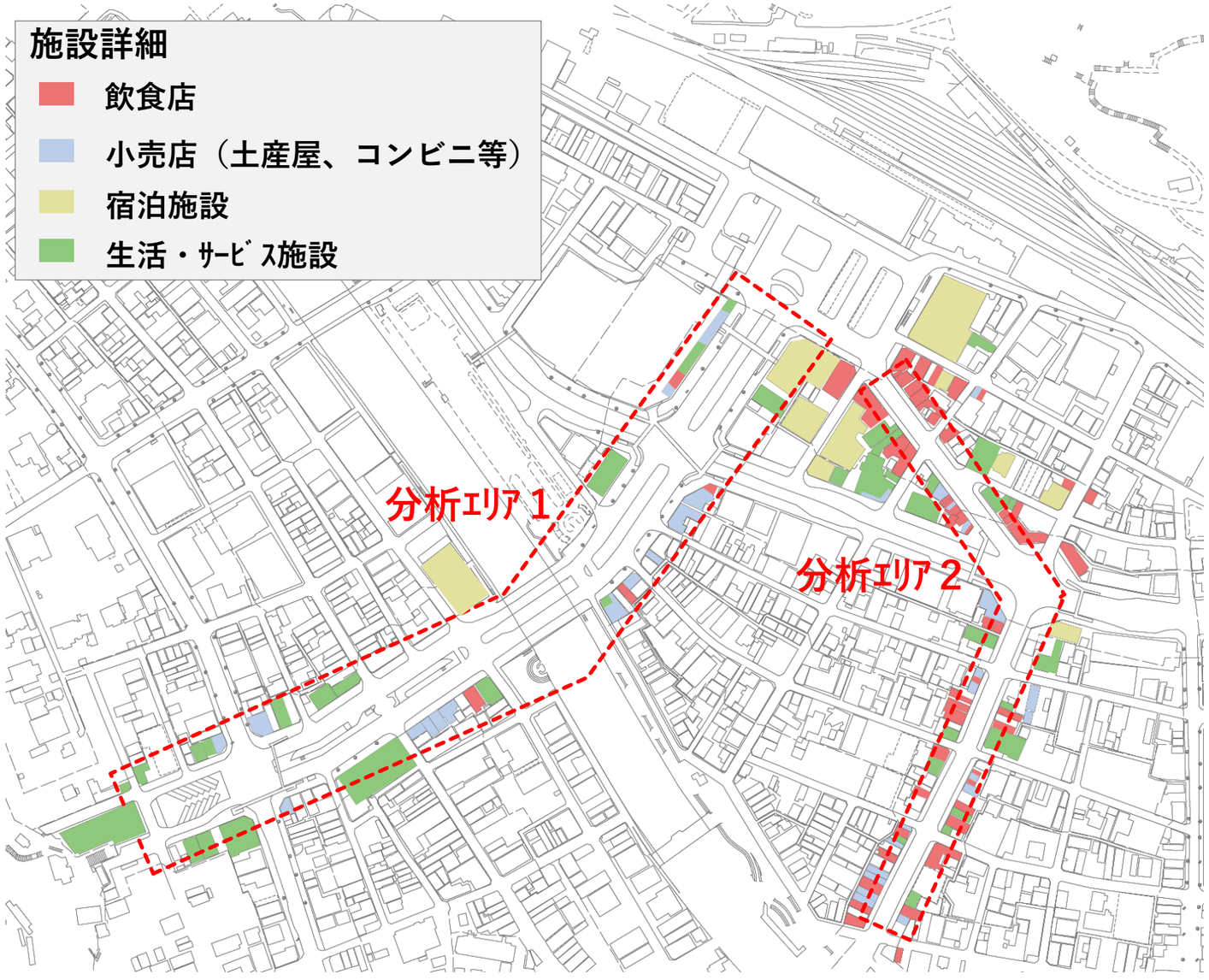
2025年**休日**（2025.9.13～9.15）

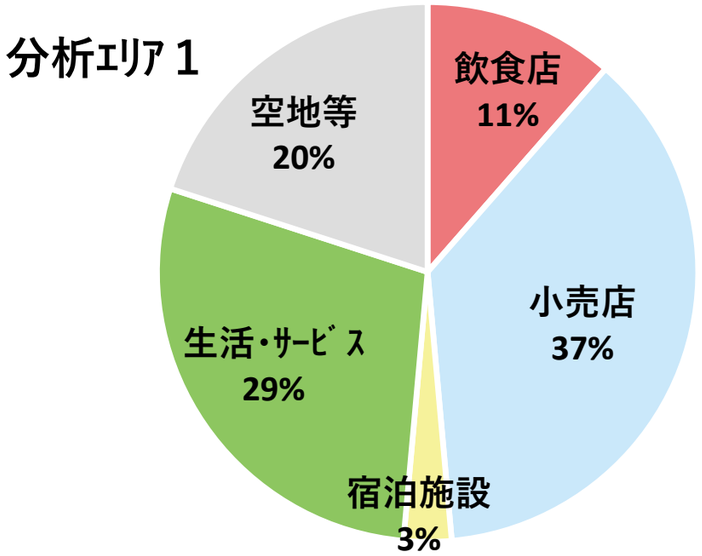
データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDILocation Analyzer」調査に用いたデータは au（KDDI）スマートフォンの位置情報ビッグデータ。（auスマートフォンユーザーからの同意に基づき取得し、個人が特定できない形式に加工した位置情報および属性（性別・年齢層）情報データ）・データには 20 歳未満, およびインバウンド観光利用者のデータは含まれません。・分析結果の数値は全人口推計値（サンプルを、国勢調査の市区町村別・性年代別人口に基づいて拡大した値）となります。
下図はNTTインフラネットを基に作図。

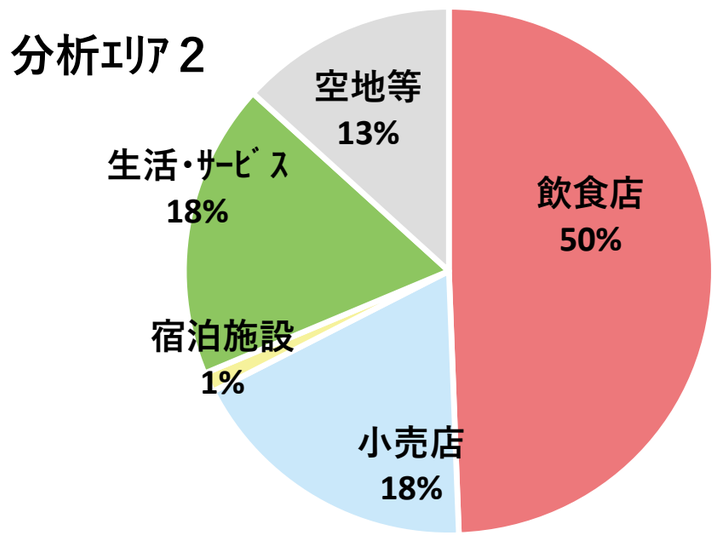
歩行者の滞在は、平日・休日ともに徳島駅周辺は多い。
新町橋通り（徳島駅～新町橋付近）においては、平日の方が滞在人口が多いことが確認できる。

ビッグデータの分析からみた回遊性の現状

通りの施設状況





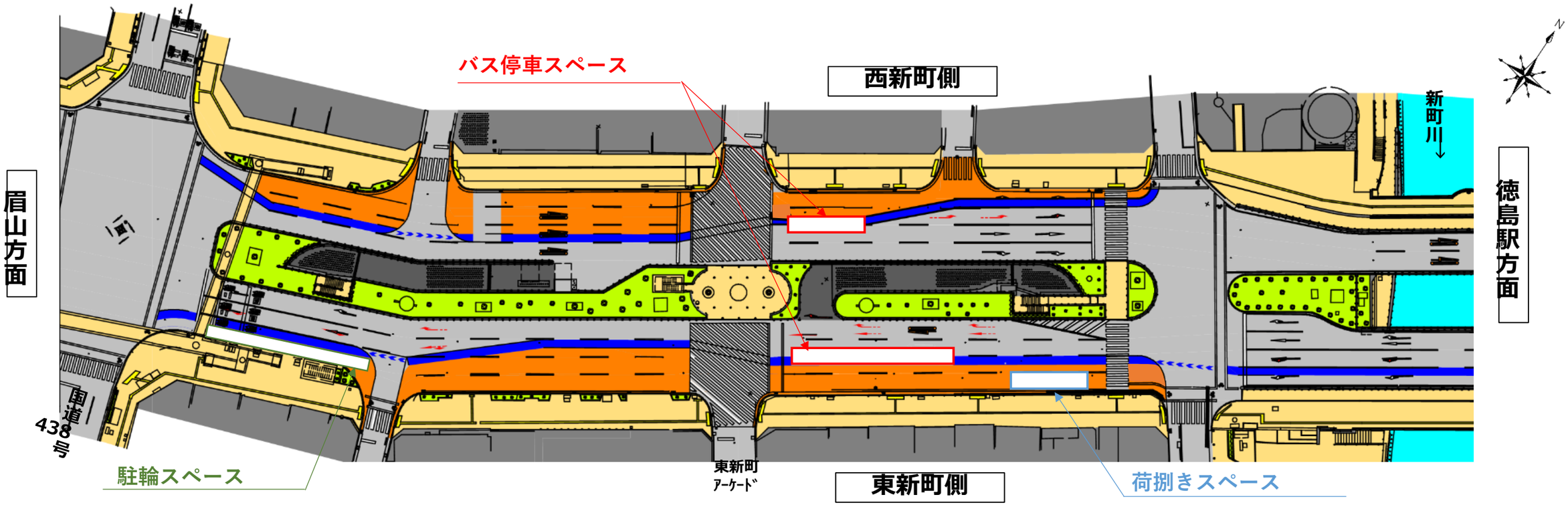


データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDILocation Analyzer」調査に用いたデータは au（KDDI）スマートフォンの位置情報ビッグデータ。（auスマートフォンユーザーからの同意に基づき取得し、個人が特定できない形式に加工した位置情報および属性（性別・年齢層）情報データ）・データには 20 歳未満，およびインバウンド観光利用者のデータは含まれません。・分析結果の数値は全人口推計値（サンプルを、国勢調査の市区町村別・性年代別人口に基づいて拡大した値）となります。
下図は道路台帳を基に作図。

新町橋通り（分析ｴﾘｱ1）は、生活・サービス施設が通り沿いに比較的多く、
両国橋通り方面（分析ｴﾘｱ2）は、飲食店が約50%を占める。

社会実験の概要

新町地区において、令和7年11月15日(土)～30日(日)／16日間、社会実験を行いました。





車線の一部を規制して歩道に



テーブル・ベンチの設置



お絵かきイベント

社会実験で分かったこと

1　広い歩道や座って休めるベンチ、道路お絵描き・キッチンカー・マーケットなどのイベントが好評でした

2　安全なスペース（遊び場）が欲しい、パラソルや木陰などの日差し対策があればといった意見がありました

3　車道は1車線でもOK

交通量が現状程度であれば、車道を1車線まで減らせることが分かりました



テーブル・ベンチの設置



キッチンカーの設置

本日行うこと

将来の風景と、過ごし方を描く

今日行うグループワークの流れ

グループワーク1

1 **意見を出す** 見たい風景・過ごし方を付箋に書き出します

2 **場所と結び付ける** 大判の平面図に貼り、場所との関係を見える化します

グループワーク2

3 **似た意見を束ねる** 関係する意見をグループにまとめます

4 **大切にしたい思いを見つける** なぜ大切なのかを考え、共通する価値を言葉にします

5 **短い言葉にまとめる** アイデアの種として、短い言葉と説明文にまとめます

6 **発表** 参加いただいている皆様自身の言葉で発表いただきます

話し合いで心がけること

普段の体験を話そう

この通りで感じたことや、実際に使ったときのことを話しましょう。

誰が、どんなふうに使うか想像しよう

「誰が・いつ・どこで・何をするか」を具体的に想像しましょう。

違う意見も大切にしよう

同じ意見だけでなく、違う考えも残しましょう。

次の想像につなげよう

「それなら、こんなこともできそう」と考えを広げましょう。

グループワーク1｜見たい風景・過ごし方を地図に描く

実現したい風景や過ごし方を付箋に書き、地図の上で場所との関係を見える化します

STEP 1　個人の意見を書く

付箋1枚に1つ。誰が、どこで、何をしている風景かまで書きます。

STEP 2　グループで共有する

1人ずつ説明しながら、付箋を大判の平面図（全体）に貼ります。

STEP 3　意見を広げる

似た意見を近くに置き、ほかの人の意見から追加・組み合わせます。

STEP 4　場所ごとの特徴を確認する

意見が集まる場所や、日常とイベント時の使い方の違いを話します。

付箋の区分

日常／阿波おどり時や特別な日／両方に共通する風景／過ごし方
色だけで分けず、区分名も短く書きます。



書き込み例

成果物

① 付箋を貼ったA0判平面図
② 場所ごとの風景・過ごし方
③ 特に大切なアイデア3～5個

付箋への記載内容（例）

誰が
誰が、この通りで過ごしていますか？

いつ
平日・休日、朝・昼・夕方・夜のどの場面ですか？

どこで
通りのどこで過ごしていますか？
中央分離帯・歩道・沿道・橋のたもと等

何をして
何をして過ごしていますか？

どんな良さが
その風景があると、まちや暮らしにどのような良さがありますか？

どうつながる
新町川・眉山・商店街・阿波おどり会館・徳島駅等と、どうつながりますか？

グループワーク2の進め方

グループワーク1の全体図を見ながら、意見を束ね、アイデアの種をつくります。

STEP 1　似た意見や個性的な意見を見つける

グループワーク1の付箋は全体図に残しつつ、似た意見や個性的な意見を整理します。
整理した意見について、大切なことや、特徴的なことを話し合います。

STEP 2　アイデアの種をつくる

似ている意見を、短い言葉と説明文にまとめます。
綺麗な言葉にまとまらなくても大丈夫です
仮の言葉、組み合わせた言葉、話し言葉のままで構いません

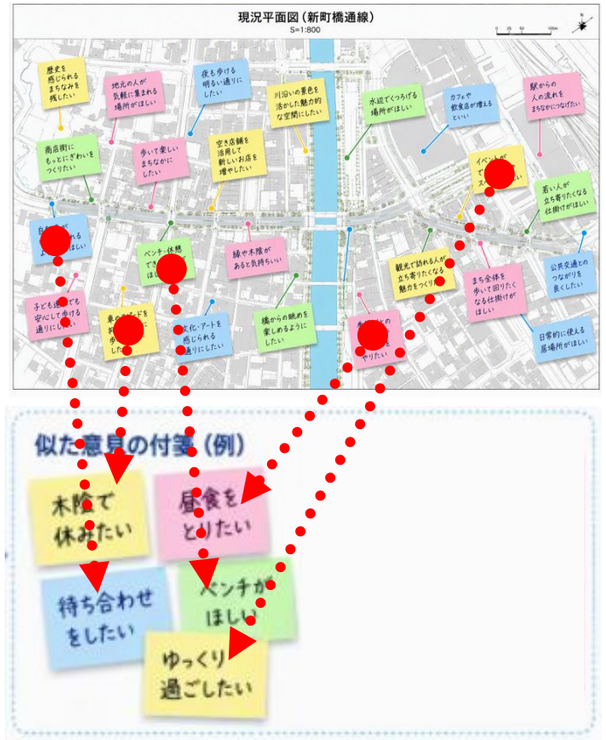
STEP 3　発表の準備をする

「アイデアの種」に込めた思いと、実現したい風景や過ごし方を、みんなに紹介する準備をしましょう。

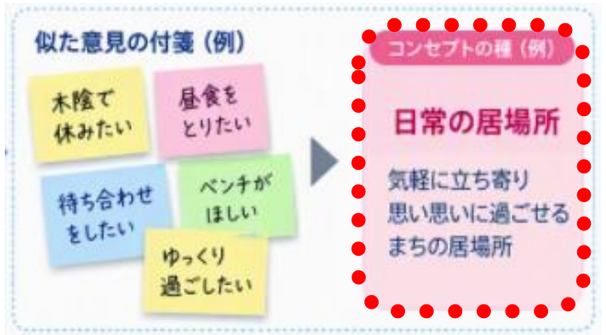
アイデアの種　：　共通して大切にしたい、特徴的なこと

アイデアの種のつくりかた（例）

❶ グループワーク1の似ている意見　：「木陰で休みたい」「買い物の途中に座りたい」
▼
❷ 共通する特徴　：　気軽に、快適にひと休みしたい
▼
❸ アイデアの種（こんな通りにしたい）：　**気軽に立ち寄りゆっくり休める通り**



グループ１の成果をもとに
似た意見の付箋を集めてみます



例のつくりかたを見ながら
アイデアの種を作ってみましょう！

各班の発表のしかた

各班5分程度で発表をお願いします。

1	**アイデアの種**	班でまとめた短い言葉と、その言葉に込めた意味を紹介します
2	**代表的な風景**	その言葉が表れる具体的な風景・過ごし方を挙げます
3	**特に伝えたい点**	場所との関係や、班で特に盛り上がった視点を共有します
4	**意見が分かれた点**	まとまらなかった論点は、併記したまま共有します
5	**質疑は全体共有で**	発表後の個別質疑は最小限とし、全班の発表後にまとめて整理します

今後の流れ

1 **WEBアンケートを実施します**

この場に来られなかった方を含め、広く意見を把握します。
※実施時期につきましては、改めてご案内します。

2 **全体コンセプト案をまとめます**

通り全体のコンセプト案と、エリアに応じたコンセプト案を作成します。

3 **第2回コンセプトWSで比較します**

第1回景観デザインWSの内容を共有させていただいた上で、複数の案を並べて、比べながら議論していただく予定です。
※開催日程につきましては、改めてご案内します。
12月or1月を予定

県都とくしまウォーカブル推進会議

コンセプトの方向性について議論する予定です。



これまでの議論を踏まえ、次の風景を一緒に描く

本日はありがとうございました。 徳島県 県土整備部 都市計画課

